



満開の桜

！日本の知恵、
プラスチックの知恵

桜に託された日米親善の
バイオテクノロジー

タカジアスターゼの発明などで知られる、世界的な化学者の高峰譲吉（1854～1922）。彼は、日本古来の麴の技術からタカジアスターゼを導き出し、近代バイオテクノロジーの父と呼ばれました。また、発明家、住友ベークライトにも縁のある実業家、慈善家といった多彩な顔を持つ人でもありました。そして、1884年（明治17）に米国の万国工業博覧会へ事務官として渡米。米国人女性と結婚して以来、日米文化交流にも力を尽くしました。そのひとつが、明治末、当時の東京市長の尾崎行雄を支援して、米国に桜の苗木を贈ったこと。日米の懸け橋となった桜の花のように、民間大使としても活躍しました。そして、現代の医療分野で生命の懸け橋となるのが、住友ベークライト S・バイオ事業部の「S-BIO」「SUMILON」の2つのブランド。これらは、検査・診断、創薬そして再生医療の分野にまで、新たな価値を提供いたします。



住友の「S」、バイオの「b」、そして「人」。人と人とのつながりを大切に、明日のライフサイエンスに新たな価値を提供します。

プラスチックのバイオニア

 住友ベークライト株式会社
<http://www.sumibe.co.jp>

S・バイオ事業部 s-bio@sumibe.co.jp

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目5番8号 天王洲パークサイドビル TEL:03-5462-4831 FAX:03-5462-4835